

# 他者とのコミュニケーションを楽しみ、学び合うことのできる児童の育成 ～授業における発達支持的生徒指導～

実践事例 教科:6年生理科 単元名:てこのはたらき

特別研修員 生徒指導 深澤 利光(小学校教諭)

## 【児童の実態】

- ・コミュニケーション能力、表現する力の個人差が大きい。
- ・失敗や目立つことを気にしすぎてしまう。



## 【教師の願い】

- ・交流しながら学ぶ楽しさを感じてほしい。
- ・自分の居場所や受け入れられている安心感をもってほしい。



## 自己存在の感受の促進

児童が「一人の人間として大切にされている」と感じられる支援

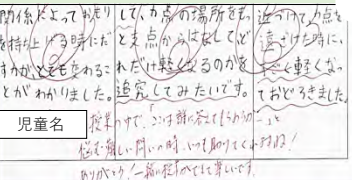


児童の考えを一齐に全体共有するためにICTを活用する。授業内において一人一人の考えが大切にされている実感を高める。



プロジェクトと板書を併用し、それぞれの児童の考えを取り上げたり、友達の考えを説明させたりすることで、児童の考えを大切に、授業に生かしていく。

単元末の児童の振り返りと、それに対する教師のコメント。一人一人の頑張りを認める、具体的な言葉掛けや励ましを送ることで自信をもたせる。



## 安全・安心な居場所づくり

授業において、児童の個性が尊重され、安全かつ安心して学習できる環境づくり



児童全員に役割のある授業

準備や片付けで全員に役割を与えることで、授業への参加意識が高まり、自分の「居場所」を感じられるようにする。また、実験や観察も、班全員が行い、気付いたことを共有する場にする。



教師の見取りに基づく、意図的な座席の工夫により、安心して学習できる。

年度初めに発表者と聞き手のルールについて指導する。年間を通して徹底していくことで、安心して発言・発表できるようになる。



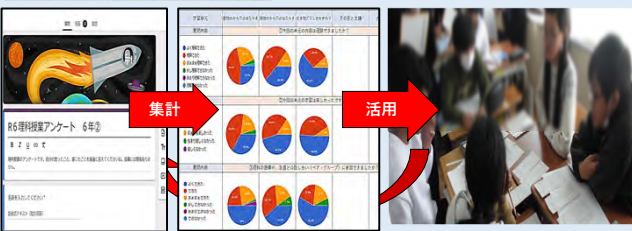
## 共感的人間関係の育成

共同体験を通して、なぜそう思ったのかという児童の考えについて、児童同士が互いに関心を抱き合うことができる関係づくり



てこのミニチュアを使った話し合い

児童の特性に配慮した座席を基に、関心をもちやすい題材や簡単に試行できる道具を少人数単位で用意することで、交流を活発にしていくことができる。



単元ごとに、発達支持的生徒指導の視点を踏まえたアンケートを実施、更に児童がコミュニケーションを楽しめるように、授業内容や環境の修正を図り、次の授業実践につなげていく。

## 自己決定の場づくり

児童が、自らの意見を述べ、考え、選択し、決定する力の育成

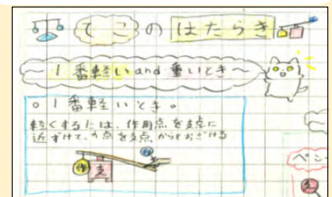
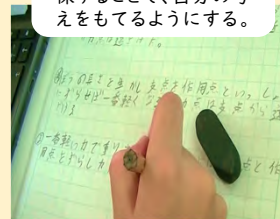


観察道具を自分たちで選択する

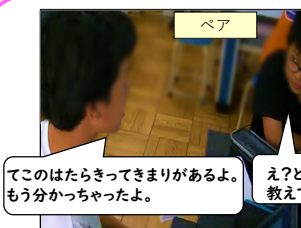
本時の学習のゴールに向かって、どの器具を使うか班で話し合っている。最適な道具を相談しながら決めることで、自己決定していく力を養う。

観察や考察など「個」で考え表現する時間を確保することで、自分の考えをもてるようにする。

単元を通しての学びをポートフォリオやスライドで作成、自分の考えを自分で表現する場を設ける。成果物を互いに説明させたり、読み合ったりすることで更に自信をもつことができる。



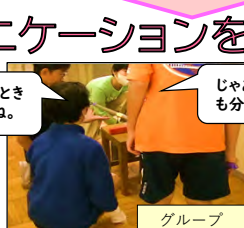
## コミュニケーションを楽しむ・学び合う



てこのはたらきってきまりがあるよ。もう分かっちゃったよ。

一番軽い力で持ち上げるとき、位置関係は分かたね。

え?どんなきまり? 教えて、教えて!



じゃあ、一番重いときの位置関係も分かるんじゃない?

こんな予想もあったんだ。試してみたいな。



〇〇さんの予想と同じだな。

## 【目指す児童像】

友達との関わりを楽しみながら学び、相手意識をもって伝え合うことのできる児童

- 成果 学級内の信頼関係が深まり、学びに向かう雰囲気が醸成されていった。結果、円滑な話し合い活動から多くの気づきや学びが生まれ、全体的に学習意欲が向上する様子が見られ、アンケートにもその結果が表れていた。
- 課題 四つの視点の全てを、毎回意識して取り組むのは困難である。1時間の授業で力を入れる取組を焦点化して実施する必要がある。